

繋げていくこと

佐々木香子 (財団法人 十勝圏振興機構 事業部 研究開発課 主任(研究職))

仕事の内容とやりがい

(財)十勝圏振興機構(とかち財団)は十勝地域の産業を総合的に支援する機関で、私の所属する事業部研究開発課は、食産業に関わる検査分析や試験研究、商品開発等を行う部署です。民間企業や大学、官公庁等と共同で仕事を進めることが多く、様々な業種の方と幅広い分野で従事できることが、この仕事の面白さだと思います。また、仕事で知り合えた方々や、その方々に教えて頂いた事など、携わった仕事で得た様々な人的関係や知見を、次の仕事に繋げて発展させていけるところにも醍醐味を感じております。

仕事と生活のバランス

「食」は日常生活にも大きく関わっていることなので、仕事とのメリハリがつきにくいところがあります。仕事で試作試験を行うことも多く、帰ってからの食事の支度が億劫になることも時々あります。そのような時のために、休日には何種類か日持ちする料理を作ったり、簡単に食べられるよう半調理して冷凍したりして、自分なりの工夫をしています。また、プライベートでは家庭菜園で採れた野菜を調理したり、お酒を飲みながら相性の良いつまみを考えたりと、仕事とは別の部分でバランスよく「食」を楽しみ、気持ちを切り替えています。

進路決定のきっかけ

自身が生物や生化学に興味があったことから、帯広畜産大学生物資源化学科に進学し、生化学や食品化学、微生物学など現在の仕事にも関わる科目を履修しました。研究室ではマメ科植物の根に共生する根粒菌についての研究を専門に行い、その独特な生態系に魅力を感じて修士課程でも研究を続け、その間、帯広畜産大学が岩手大学大学院連合農学研究科の構成大学となったことから博士課程への進学を決めました。修了間際、もっと広い分野で食に関わる仕事に携わりたいと考えていた時に、運良く当財団より声が掛かり、現在の職に就きました。

進路選択に対してのメッセージ

理系、文系のどちらに進学しても、社会に出た時には様々な分野の知見が必要になると思います。基礎知識や専門知識を得ることは非常に大事なことだと思いますが、それ以外の分野にも見聞を広める事で、得られた知識を生かせるのではないかと思います。分野にこだわりすぎず、自分の進んだ道で得たものを出来るだけ有効に生かし、その先に繋げていくと良いと思います。

<佐々木香子(ささきけいこ)プロフィール>

1990年3月 北海道室蘭栄高等学校 卒業
1990年4月 帯広畜産大学 生物資源化学科 入学
1994年3月 同大学 卒業
1994年4月 同大学大学院 畜産学研究科 生物資源化学専攻 進学
1996年3月 同大学 修士課程修了
1996年4月 岩手大学大学院 連合農学研究科 生物資源科学専攻 進学
1999年3月 同大学 博士課程修了 博士号(農学)取得
1999年4月 財団法人 十勝圏振興機構 入団
2006年4月 同財団 研究開発課 研究員
2012年4月 同財団 事業部 研究開発課 主任(研究職)